

## 「自ら学ぶ児童の育成」

～算数科における授業づくりを通して～

### I 研究の内容

#### 1 研究の具体的内容

##### ①テーマに基づく校内研究

○研究授業の実施「教えて考えさせる授業」を活用して

○理論研究

\*算数科において山梨大学一瀬孝仁准教授を招いての講義。

・教材の工夫，板書，発問，授業展開

・思考力や表現力を高めるための言語活動の充実について

○算数学習アンケートの実施と集計・分析（5月，12月）

○一人実践の取組み

##### ②甲州市確かな学力育成プロジェクトとの連携を図る。

○あいさつ運動・学習規律の取組（授業づくり・授業改善部会との関連）

○Q-Uの実施（4月，11月）と分析・活用の充実（学級・集団づくりとの関連）

○家庭学習の手引きの見直し，家庭学習の推進（保護者・地域との連携部会との関連）

##### ③全国学力・学習状況調査の分析と課題把握

○県学力把握調査の分析と課題把握

○教育課程講習会の環流報告

#### 2 研究の方法

○研究授業は，2年目として，話し合いの場の工夫・教師の関わりを中心に研究を深める。

○年度初めに，児童の算数学習アンケートを行う。その結果に基づき，達成度の低い質問項目に留意し，指導を行う。

○個に応じた指導の充実をさらに推進するために，Q-Uを実施し，分析・活用をしていく中で児童理解を深める。

○全国学力・学習状況調査と県学力把握調査の結果をもとに，課題を確認し，改善策をたて，実践する。

#### 3 研究の実践

- |        |      |                               |     |       |
|--------|------|-------------------------------|-----|-------|
| ①研究授業  | 第6学年 | 算数科研究授業「比例をくわしくしらべよう（比例と反比例）」 | 授業者 | 高石圭子  |
| ②一人一実践 | 第1学年 | 算数科「ひき算」                      | 授業者 | 小林淳子  |
|        | 第2学年 | 算数科「かけ算（2）九九をつくろう」            | 授業者 | 有井千恵子 |
|        | 第3学年 | 算数科「円と球」                      | 授業者 | 山下史江  |
|        | 第4学年 | 算数科「どのように変わるか調べよう」            | 授業者 | 水上由人  |
|        |      | 理科科「水のすがたと温度」                 | 授業者 | 三森敏彦  |
|        | 第5学年 | 算数科「平行四辺形の面積」                 | 授業者 | 徳良賢治  |
| ひまわり   | 第2学年 | 算数科「数の学習（5）のかたまり」             | 授業者 | 柏原真澄  |

## II 成果と課題

### 1 成果

#### ①テーマに基づく校内研究について

- ・九九検定やことわざ名人など日常的な取り組みが子どもの励みになっていた。意識して取り組んだことで、発表力がついた。
- ・話し合いの場の工夫や教師の発問、教材の工夫などの授業展開を授業実践により、研究を深めることができた。
- ・算数科のアンケートの結果が今年度の研究に生かされ、算数科の授業を通して、意見を交換したりする機会を多く作ったことにより、子どもたちの力や意識の向上に繋げることができた。
- ・3年計画の2年目として、話し合いの場の工夫、教師の関わりを中心にポイントを絞って研究できたことはよかった。3年目に繋げていきたい。
- ・自力解決・ペアグループ解決・集団解決を行い、考え、話し合う言語活動を授業に取り入れることにより、子どもたちは、考えを深め、広め、学びを深めることができ、授業改善の手立ては、有効的だった。
- ・一人一実践の取り組みは、授業を見合うことで、個人だけでなく他の先生の力量アップにも繋がる良い機会となった。また、ミニ校内研究を実施し、成果と課題を振り返ることができ、授業改善の手立てを学ぶことができた。

#### ②甲州市確かな学力育成プロジェクトとの連携について

- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの取り組みを、無理なく校内研の内容に関わらせることで有効的に研究を進めることができた。
- ・Q-Uの実施やQ-U分析は、学級の実態把握を知り、課題の改善方法について学ぶよい機会であり、学級経営や授業に生かすことができた。

#### ③全国学力・学習状況調査の分析と課題把握について

- ・全国学力学習状況調査・県学力把握調査の分析により、本校児童の課題点が明確になり、今後の改善点を話し合ったり、早速対策としての取り組みを始めたたりすることができた。

### 2 課題

- ・児童の学力差が大きい中で、どの児童にも自ら学ぶ意欲を持たせ、授業をどのように作り上げていくのか。確かな学力・定着・参加が生まれる授業をどう作り上げていくのか。わからない子、わかる子、どちらも活発に意見を出し合い、楽しく学力がつくようにしたい。
- ・研究授業を通し、子どもたちは、基礎基本・思考力・発表力を身につけてきたと思うが、発表に関しては苦手意識がまだある。これからも、言語活動を取り入れた授業・考えさせる授業等、継続的な授業づくり・指導を学年段階において継続して行い、学力を定着させていきたい。
- ・一人一実践を計画的に実施することができなかった。計画的に実施することで、研究の内容や授業研究がより深めることができた。

## III 成果物

- ・算数学習アンケート（5月実施・12月実施）
- ・授業研究、授業実践の授業案（ワークシート等も含む）
- ・祝小 学習のてびき
- ・Q-Uアンケート結果（2回）

（研究主任 山下史江）